

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

「サダーカ」メールマガジン Vol. 08



発行：シリア支援団体サダーカ  
2016. 5. 23

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

シリアの混乱が続きとうとう6年目を迎えてしまいました。シリア和平交渉は難航を示し、和平にむけたプロセスの難しさと問題の複雑さが浮き彫りになっています。一方でシリア国内外難民・避難民の現状は悪化する一方です。今月末にはG7伊勢志摩サミットが行われますが、それに先駆けて、サダーカは他のNGOと共に「シリア和平ネットワーク」を立ち上げました。また伊勢志摩サミットでも、市民サミットのイベントのひとつに「シリア・難民分科会」として難民支援協会とイベントを開催します。

今回も、ヨルダンからの活動報告、それから日本での活動と上記の「シリア和平ネットワーク」「G7伊勢志摩サミット・市民サミット」など、盛りだくさんのメルマガになっています。ぜひ一読ください！シリアの平和を願って。

サダーカホームページ：<http://www.sadaqasyria.jp/>  
Facebook：<https://www.facebook.com/sadaqasyria.jp/>  
Twitter：<https://twitter.com/sadaqasyria>  
サダーカブログ：<http://ameblo.jp/sadaqasyria>

\*\*\*\*\*

■目次

1. アハバールフロムヨルダン 《ヨルダンからの報告》

- (1) 代表からの挨拶
- (2) シリアから熊本へメッセージ
- (3) LUNA SEAそしてX JapanのギタリストでもあるSUGIZOさんのヨルダン訪問
- (4) 写真家の吉竹めぐみさんと息子さん、主喜くんのヨルダン訪問

2. アハバールフロムニッポン 《日本での活動の報告》

- (1) シリア和平ネットワーク設立
- (2) 全国各地でシリア映画上映
- (3) ラジオ放送難民ナウ！-世界の難民速報-にて、田村代表のインタビュー放送
- (4) アースデイ東京に出店
- (5) 伊勢志摩サミットにむけて
- (6) レディーフォー達成！ヨルダンの協力者アブターレクへの車の寄付
- (7) 安田菜津紀さん著『君とまた、あの場所へ シリア難民の明日』出版

\*\*\*\*\*

## 1. アハバールフロムヨルダン 《代表からの挨拶》

### (1) 代表からの挨拶



(家庭訪問先の子どもと話す、代表の田村)

サダーカ代表 田村 雅文

5月26、27日にG7伊勢志摩サミットが行われます。

この5年間、シリアの人たちの想いに寄り添ってきた私たちは、彼らがどれほどまでに「シリアに帰りたい」と思っているか、ということは今一度この機会に世界へ伝えなければならないと考えています。いまやシリア国内の人たちは誰と誰が戦っているかもわからない、水と電気、パンがある生活が欲しいだけ、離散した家族とシリアに戻りたい、そんな想いを抱えながら生きています。

サミットに先駆け、先週日本政府は2017年から5年間で150人のシリア人留学生を受け入れると発表しました。

また、難民申請等に関わる友人から聞く限り、難民認定のハードルは未だ高いものの、シリア人の特別在住許可はこれまで以上に無いスピードで進んでいるとのこと。これらのニュースを心から歓迎する一方で、根本的な問題であるシリアの紛争が止まりません。難民は更に増加し殺戮による民間人の犠牲も増えるばかりです。サダーカは、今こそ日本政府を始めシリアの紛争に関わる全ての国や地域のリーダーたちに紛争停止の必要性について訴えなければならないと考えています。

更に、難民問題の処方箋として注目されている第三国定住ですが、シリア人の多くが第三国定住を望んでいないことも余り知られていないかもしれません。つい先月、私自身も驚くようなこんな出来事がありました。

シリア人のお宅への家庭訪問を続けるヨルダン人の協力者アブターレクが、マレーシアにいるムスリムの友人からシリア人の母子家庭100家族を受け入れたいと相談を受けたとのことでした。そこで、彼が持っている100人の母子家庭のシリア人家族に電話して確認したところ92家族から断られたとのこと。マレーシア行きの申し出を断ったある母子家庭のお母さんに話を聴きにいきました。その家は、5世帯17人が一緒に住む大家族でした。



(家庭訪問先で相談を聞く、アブターレク氏 [写真左から2人目の男性])

「シリアにいたときから、今でも17人で一緒、だから離れることは無い。」

これが、彼らがマレーシア行きを断った理由でした。もちろん彼らは今ぎりぎりの生活を送っていることは間違いありません。マレーシアに行けば、家もあり、食事もあり、子どもたちの教育も全てが提供されるということをどれだけ強調しても、彼らの表情は変わりませんでした。彼らは元々、シリア第3の都市であるホムス郊外の農村地帯で畑を耕し、牛を飼い、乳製品加工品を作って売っていました。紛争が終わればその日にシリアに帰って家の隣にテントを立ててまた農業を始めるのさ、と明るく元気に語った青年の表情が忘れられません。



(家庭訪問先のシリア難民の子どもたち)

本メルマガの2でも紹介しているとおり、サダーカはシリア和平ネットワークといういくつかのNGOによる緩やかな連携でシリアの紛争停止を目指す提言を作成しています。5月23日四日市で行われる市民の伊勢志摩サミットでは、難民支援協会の方々とブースを設けシリアのドキュメンタリー映画『目を閉じれば、いつもそこに ~故郷・私が愛したシリア~』の上映とシリアへの赴任経験があるサダーカ関係者等によるパネルトークも行います。是非以下のウェブサイトもご覧頂き、この提言を多くの人たちに広めて頂き、シリアの人たちの願いを叶えるための力を皆さんにも貸していただければ

と思います。<http://www.sadaqasyria.jp/news.html#20160331a>

## (2) シリアから熊本へメッセージ

過去に日本語を勉強したことがあるというシリア人の青年から、熊本へメッセージが届きました。この青年は、自身も首都ダマスカスを離れ、シリア南部で家を追われた人たちのサポートを続けています。状況はどう？と聞いてみると、物はあっても全てが高すぎる、野菜も豆も、すべてが高い。電気がもう3年も無いから発電機を使っているけれど燃料の高騰で誰も買えるような状況じゃない。ヨルダンから支援団体等がシリア国内に支援物資を入れようとはしていますが、国境を越えた非常に支援は難しく、厳しい状況が続いているようです。



(シリア人青年から熊本へメッセージ)

熊本、そして九州の人たちが少しでも平安な生活を送れますように。そしてシリアにも一日も早く平安が訪れますように。

## (3) LUNA SEAそしてX JapanのギタリストでもあるSUGIZOさんのヨルダン訪問

UNHCRの協力でヨルダンの難民キャンプを訪問されたSUGIZOさんが、サダーカが支援しているシリア難民への家庭訪問にも参加してくださいました。

『いつか世界から難民という言葉が必要なくなる時を信じて。そして平和を取り戻したシリアへ、故郷に帰還した彼らに必ず会いに行きたい。(綴られた文章から一部抜粋)』

優しく暖かいまなざしで常にシリアの人たちに寄り添うSUGIZOさんの人間性に現地でアレンジをした多くのボランティアも心打たれました。是非多くの方に中東を始めて訪れたSUGIZOさんの言葉に触れてもらえればと思います。

紛争の一刻も早い停止、そしてシリアの人たちが望む故郷への帰還が一日も早く実現しますように。

SUGIZOさん滞在記は下記リンクからご覧になれます。

<https://www.facebook.com/notes/sugizo/visit-syrian-refugees/1004303019639339>

#### (4) 写真家の吉竹めぐみさんと息子さんのヨルダン訪問

先週までヨルダンを訪れてくれた写真家の吉竹めぐみさんと息子さんとで中学2年生の主喜くん。11歳の少年カーセム君との出会いの様子を綴っていただきました。

\*\*\*\*\*

今回、ヨルダン・アンマンで、シリア支援団体「サダーカ」が支援しているシリア人の家庭を数件訪問させていただきました。

その内の1軒に11歳の少年カーセム君の家庭があります。困窮する生活の中、お母さん、子どもたちの表情は硬く笑顔はありません。働き手はカーセム君だけで、一日中働いても手に出来るのは340円ほど。彼と話をするもその表情は無表情のままピクリとも動かない。そんな中、シリアでよく遊んでいたサッカーを息子としよう、と言う事になりました。近所にある学校でボールとコートを借ります。二人でパスをしますが息子よりずっと上手なカーセム君。

その時、初めて彼が笑ったのです！

嬉しそうにボールを蹴り、嬉しそうにボールを追いかけ、息を切らし…。その時間、彼はシリアに居る11歳のサッカーが好きな普通の男の子でした。

青い空の下、希望に繋がった笑顔。



(サッカーをするカーセム君と吉竹さんの息子さん)

でもその後彼はまた一日中働きに出るのです。カーセム君の背中を見送る時、様々な感情が溢れ出て爆発し涙が止まりませんでした。ボールを蹴ると言う、簡単な単純な事が今の彼には出来ない。

あれほど迄に心温かく、思いやり深く、ホスピタリティーに溢れ、相互扶助を実践し、家族を家族との時間を大切にするシリアの人々が、笑顔溢れるシリアの人々が、どうして！どうして！

一刻も早く紛争が終わり、大好きな人たちが大好きな場所で幸せに笑顔に暮らせる事を切望して止みません。

紛争前の美しく輝く素晴らしいシリアを知る者

の一人として、これからも声を上げ続けます。

大海の一滴の活動かもしれませんが、集まれば波になります。波にすべく、これからもシリアを愛する沢山の方たちと共に！

---

## 2. アハバールフロムニッポン 《日本での活動の報告》

---

### (1) シリア和平ネットワーク設立

サダーカは、日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）、日本国際ボランティアセンター（JVC）、ワールド・ビジョン・ジャパン（WVJ）と連携して「シリア和平ネットワーク」を立ち上げました。このネットワークは、シリア紛争に利害を有さない日本が議長国となる5月のG7伊勢志摩サミットの場でシリア和平に向けた非軍事的対話プロセスで日本政府がリーダーシップを発揮するよう求める提言書を取りまとめ、「シリア人の声」と共に外務省関係部局や国会議員に提出しました。

この提言書には26のNGOから賛同を頂いています。

#### 【提言書内容】

- シリア紛争激化により死傷者や難民が急増しており、これまで以上の人道支援は必要だが、根本的な和平を実現しない限り紛争被害者は増加。
- そのために、日本政府が和平プロセスでリーダーシップを発揮し、紛争終結と和平実現に必要な環境醸成に向けて下記の3分野で行うことを提案。
- G7各国が利害を超えた非軍事的解決について円滑な話し合いを行う様、日本政府がG7各国リーダーに働きかけることを提案。

#### 【具体的な行動内容】

1. 障害者を含む紛争被害者間の信頼を情勢し、ともに和平に向けた取り組みを協議する機会と障害者が復興に際し中心的な役割を担える様に必要な研修事業を日本政府主催で実施すること。
2. シリア人と日本人の有識者による和平に向けた対話を場を日本政府が設けること。
3. 日本政府は、シリアに関心のある日本の市民社会グループと和平実現に向けた対話の場をもうけること。

詳しくは以下のサイトもご覧ください。

[http://www.sadaqasyria.jp/\\_.../sc943/AT1\\_syriaProposalBook.pdf](http://www.sadaqasyria.jp/_.../sc943/AT1_syriaProposalBook.pdf)

### (2) 全国各地でシリア映画上映

サダーカも協力し、昨年のUNHCR難民映画祭で上映されたシリア映画『目を閉じればいつもそこに～故郷・私が愛したシリア～』が、全国各地で上映されました。

#### ▼3月21日（月）大阪・高槻市にて

NPO法人たかつき市民活動ネットワーク（TCAN）主催のイベントにサダーカも共催して、映画上映を行いました。本イベントでは、ラジオ放送「難民ナウ！」代表の宗田勝也氏の司会で行われ、会場ではイブラ・ワ・ハイトさんの刺繍作品、アレッポ石鹸なども販売されました。

<http://rafiq.jp/event/160321SyriaEvent.pdf>

#### ▼4月17日（日）東京・葛飾区にて

上映後には、同映画監督の藤井沙織さん、『それでも僕は帰る』を配給したユニテッドピープル社のアーヤ藍さん、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんによるトークセッションも行われました。

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20160504-00000006-minkei-113>

▼4月24日(日)協力隊まつり(東京・市ヶ谷 JICA 地球ひろば)にて

映画上映では、ヨルダン在住経験がありヨルダンのシリア人難民キャンプで活動していた本間さんのトーク、また昨年末にヨルダンを訪れた明治学院大学の学生による報告も行われました。

▼5月7日(土)～13日(金) 京都・京都市にて

立誠シネマプロジェクトの企画で、「難民」「移民」分野の識者である方々の推薦する映画を上映する、移民・難民映画週間が開催されました。その一環で、本映画も、ラジオ放送『難民ナウ!』代表の宗田勝也氏推薦のもと、上映されました。

<http://risseicinema.com/movies/15572>

(3) ラジオ放送『難民ナウ!』-世界の難民速報-にて、定期的に田村代表のインタビュー放送中

アンマン在住のサダーカ代表田村が、ラジオ放送『難民ナウ!』にてインタビューを受け、祖国を出て、遠い外国へ行くことと決断したシリア人の友人の想い、そして私たちにできることを語ります。

第3回目に紹介する友人は、欧州へ行く多くの仲間たちを横目に、ヨルダンでの生活を続けていく強い決意を語っていましたが、妻そして子ども二人と共にカナダへ行くことを決めました。400万人以上がシリア国外で避難生活を送るという状況の中、カナダ政府が進めている第三国定住枠 25,000 人に入ることができた友人家族。以下のリンクより聞くことができます。

『難民ナウ!』を通して月に一回のペースでヨルダンのシリアの人たちの報告をしています。ぜひチェックしてみてください!

ネットラジオで聞きたい方はこちら <http://goo.gl/twBasq>

Youtube で聞きたい方はこちら <https://youtu.be/H1SN64swdQI>

難民ナウ! ホームページから聞きたい方はこちら <http://www.nanminnow.com/>

(4) アースデイ東京へ出展

4月23(土)・24(日)東京の代々木公園で開催されたアースデイ東京に、株式会社アレッポの石齋の皆さんと共に出店しました。多くの方に立ち止まっていたいただき、シリアのことについて知ってもらい、少しでも身近に感じていただく機会になったと思います。また、ヨルダンでも披露してくれたバイオリンでアースデイを盛り上げた LUNA SEA そして X Japan のメンバーである SUGIZO さんも、サダーカを始めシリアに関連するブースを訪れてくれました。お越し下さったみなさま、どうもありがとうございました。

詳しくは以下もご覧ください。

<https://www.facebook.com/media/set/?set=a.1020154318054209.1073741882.103006393102344&type=3>

(5) 伊勢志摩サミットに向けて

5月26日27日と二日間に渡って行われる G7 伊勢志摩サミットに向けて、国内外の NGO や NPO が連携して、「力強い市民社会の形成を目指して、地域課題や国際的な 15 の課題をテーマにした提言作りと国際社会、日本国内、地域の発信すること」を目的とした、市民サミットが開催されます。この市民サミットに、サダーカも難民支援協会と共催をして、「シリア・難民分科会」のイベントを行います。市民サミットには無料でどなたでも参加できますので、ご興味のある方はぜひご参加ください。

サダーカと難民支援協会共催「シリア・難民分科会」

